

# 出向く宮農レポート

ミツバチ導入の相談と学校給食出荷に向けた生育確認

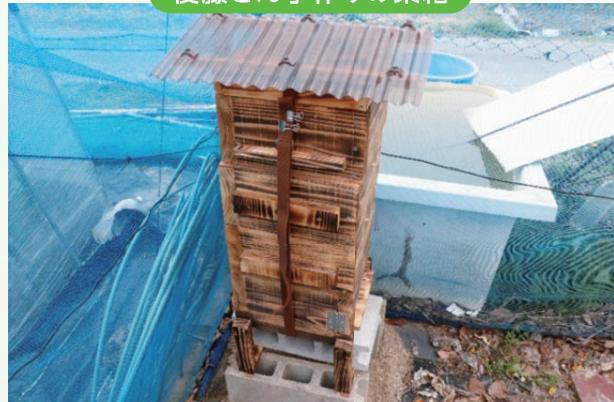


北部宮農センター瀬戸地域担当  
井上 達幾

瀬戸市で様々な野菜の栽培に取り組んでいる、後藤 丈太郎さんの畠に伺いました。

後藤さんは学校給食用に出荷する玉ねぎ栽培にも取り組んでいます。

一つ目の圃場では、鳥獣害を抑えるために、周囲をネットで囲み、ジャガイモやわけぎなどを栽培しています。これから夏に向かってトマトやスイカ、かぼちゃを栽培する予定です。



後藤さんの畠の隅にはミツバチの巣箱があります。まだミツバチの導入はしていませんが、かぼちゃやスイカの着果を良くするためミツバチの導入を検討しており、色々なところから情報を集め、ミツバチの働きやすさを考えて後藤さん自らが作製しました。JAでもミツバチが購入できることを伝え、ミツバチ導入後には出向く宮農の際に効果を検証していきたいと思います。

もう一つの圃場では瀬戸市の学校給食に出荷予定の玉ねぎなどが栽培されています。

3月以降気温が上がり、雨も増えてきたため病気の発生が懸念されたことから、ダコニール1000※の使用を提案したことで予防しており目立った病気もなく順調に生育していました。また、玉ねぎの収穫予定である5~6月までまだ期間があるため継続的に病害虫予防に努めていただくよう依頼しました。

現在、瀬戸産直友の会には、学校給食へ玉ねぎ出荷を行うためのグループがあり、毎年出荷をおこなっています。今年度もより良い玉ねぎを出荷できるよう、栽培指導をしていきます!



※ダコニール1000  
べと病・灰色かび病・白色疫病  
に適用有 1000倍希釀  
6回以内  
収穫7日前まで使用可

